

## NFRJ18 質的調査の進捗について

○木戸功（聖心女子大学）

この報告では、NFRJ18 質的調査の実査開始以降の進捗状況について述べる。2017 年度より活動を開始してきた NFRJ18 質的調査研究会は、インタビュー調査のための 4 つの班（多様性班、高齢者班、子育て班、結婚・ワークライフバランス班）に加えて、継続調査であるフィールドワーク（FW）調査のための班を組織している。2019 年 8 月 6 日より開始されたインタビュー調査については同年の 11 月 30 日に実施した 101 件目のケースをもって実査を終了した。

インタビュー調査では、家族に関する生活史を聞きとる共通の質問項目に加えて、各班における質問項目が立てられ、それに応じた協力者の選定がなされた。調査は原則として 2 名のメンバー（主担当・副担当）により実施され、メンバーたちは調査終了後にケースの概略を記したフォームを作業用の共有ドライブに提出するとともに、記録した音声データを文書化する作業を専門業者に依頼した。最も少ない者で主副合わせて 4 ケース、最も多い者では主副合わせて 10 ケースの調査に臨んでいる。このようにして調査とデータの作成にまつわる作業が進行するなかで、本研究会はインタビューデータの秘匿化・匿名化のためのワーキンググループを編成し、そのメンバーに自身が主担当となったケースのトライアルでの加工を依頼し、作業を進めていく上での課題を洗い出すとともに、それをふまえた議論を共有しながら加工の方針を検討した。

他方で、このインタビュー調査では協力者につづく FW 調査への参加を打診し、同年 11 月 9 日から実査が開始された。文字通り意図せざる結果として、8 件の全てのケースについて、ビデオカメラを一定期間にわたって協力者に預け、協力者自身に家庭生活の場面を録画して記録してもらうというやり方を採用することになった。数ヶ月でカメラを回収し実査を終了したケースもあるが、その後の年末年始以降の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、年度をまたいで比較的長期間にわたって調査を継続したケースもある。

2019 年 11 月 17 日に対面での全体研究会を開催し、その時点で当初の目標であった 100 件のインタビュー調査が完了したことを確認した。その上で、文字起こしデータの加工（個人情報秘匿化等）について方針を共有するとともに、主担当となったメンバーがその作業にあたることを確認した。このインタビューデータ（語り）に加えて、各ケースのメタデータの作成も依頼した。このメタデータは、調査日時、調査者氏名・性別・調査時点での年齢・職位に加えて、調査場面や調査時の状況を明記したものである。また、それぞれのケースが該当する場合に付すタグを用意することとした。これに登場人物の関係性がわかるようなジェノグラムを作成し添付することでそれぞれのケースのデータセットとすることにした。

研究会メンバーは自身が担当するケースについて個人情報を秘匿化したインタビューデータを作成し、副担当による確認を経た上で、調査協力者に送付し、場合によっては修正の依頼に応じ、最終的にはデータの使用許可を得た。このようにして完成したデータをメタデータと照合しながら内容を確認する作業に報告者らは 2020 年度を通じてとりくみ、必要に応じて情報の追加や修正などの作業をその都度担当するメンバーに依頼した。

2020 年 12 月 27 日にオンラインで開催したその年度の第 1 回全体研究会において、タグの追加などを含む、インタビューデータとメタデータについて統一的な修正の依頼を行った。それをふまえて再提出されたデータセットは 2021 年 2 月の時点で 101 ケース中 74 ケースあり、これを「NFRJ18 質的調査 ver. 1」としてメンバーに公開し、2021 年 2 月 17 日よりダウンロードが開始された。本テーマセッションにおけるつづく 4 つの研究報告は、このようにして共有された NFRJ18 質的調査によるデータの一部を用いて行われるものである。なお FW 調査のデータについては、それを用いた研究のあり方についてこの間 FW 班として検討の場を設け現在も議論を続けている。またデータの共有や公開の方法についても検討中である。

本報告ならびにつづく 4 つの報告は、JSPS 科研費「現代家族の過程と実践をめぐる質的研究に対する組織的取り組み」（基盤研究(B)・17H02596）にもとづく成果の一部である。

（キーワード：全国家族調査、質的データ、質的研究）